

ほけんだより

7月

病児・病後児保育「みどい」

令和5年6月14日発行

今月のテーマは「**虫刺され**について」です！



夏は、子どもが外で遊ぶ頻度が高くなるぶん、虫に刺されやすい季節です。夏場は、蚊をはじめとする虫たちが、子どもたちに近づいてきます。

子どもの場合、刺されると痒みを我慢できずにかいてしまうことが多く、かきはじめると余計に痒みが増し、悪循環に陥ってしまいます。子どもを痒みから守るため、虫刺され対策の知識を身に付けましょう。



虫刺されの症状と対処

多くの場合は、痒み・皮膚の赤み・刺された箇所や周辺の腫れ・水ぶくれになるなどです。主な症状は〈痛み〉と〈痒み〉に大別できます。〈痛み〉は針の刺激と皮膚に入った物質によって引き起こされる症状です。

一方で〈痒み〉は虫の毒素や唾液などに対するアレルギーの一種です。年齢や刺された頻度、体質などによって違いがあるため、症状には個人差があります。アレルギー体質の場合、症状が強く出ることもあるようです。虫に刺された時は、まずは、刺された箇所を水で洗い流し、市販の治療薬を塗ってあげます。

痒みが強いときは、氷水などで冷やすことである程度痒みが抑えられます。

ただし、ハチやムカデなどに刺された場合は、病院を受診することをおすすめします。



子どもの虫刺され予防対策

- ① 肌の露出を控える
 - ・ 薄手の長袖長ズボンを着せる
 - ・ 暗い色の服を避ける
 - ・ 靴下を履かせる
- ② 虫よけスプレーや携帯用の虫取り器具を使う
- ③ 窓を開けるときは網戸を閉める
- ④ 庭や家に周りなどにある水が溜まりやすい場所を整備し、部屋や寝具をこまめに掃除し、定期的に換気する



まとめ

子どもは虫に刺されやすいですが、かきむしらないことが大切です、虫に刺されてからの対処はもちろんですが、刺される前に対策を行うことも重要です。